(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2008-9830
(P2008-9830A)
(43)公開日　平成20年1月17日(2008.1.17)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
G06F 9/445	(2006.01)	G06F	9/06	610A	5B042
G06Q 50/00	(2006.01)	G06F	17/60	138	5B176
G06F 11/34	(2006.01)	G06F	11/34	A	

審査請求 未請求　請求項の数 4　OL　（全 10 頁）

(21)出願番号　特願2006-181129 (P2006-181129)
(22)出願日　平成18年6月30日 (2006.6.30)

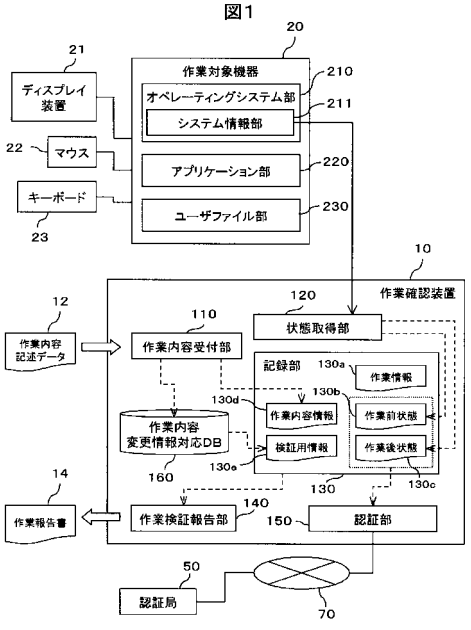
(71)出願人　000233491
日立電子サービス株式会社
神奈川県横浜市戸塚区品濃町５０４番地２
(74)代理人　110000198
特許業務法人湘洋内外特許事務所
(72)発明者　菱川　尚
神奈川県横浜市戸塚区品濃町５０４番地２
日立電子サービス株式会社内
(72)発明者　大西　健太郎
神奈川県横浜市戸塚区品濃町５０４番地２
日立電子サービス株式会社内

Fターム(参考)　5B042 MA08　MC37　NN31
5B176 AA02　AA20

(54)【発明の名称】作業確認装置

(57)【要約】
【課題】　コンピュータシステムのシステム設定情報を変更する作業において、作業担当者の作業内容を簡易に確認することができる技術を提供する。
【解決手段】　複数の項目から構成されるシステム設定情報を管理する作業対象機器に対する作業内容を確認する作業内容確認装置であって、作業内容と変更されるシステム設定情報の項目とを関連づけて記憶した作業内容変更情報対応記憶手段と、作業対象機器に対する作業を示す作業内容情報を受け付ける作業内容受付手段と、前記作業対象機器から作業前後のシステム設定情報を取得する状態取得手段と、前記作業内容変更情報対応記憶手段を参照して、前記作業内容情報が示す作業によって変更されるシステム設定情報を抽出し、前記取得した作業前後のシステム設定情報と対比することで作業が予定通り行なわれたことを検証する作業検証手段とを備えることを特徴とする作業内容確認装置。
【選択図】　図１

図1



【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の項目から構成されるシステム設定情報を管理する作業対象機器に対する作業内容を確認する作業内容確認装置であって、
作業内容と変更されるシステム設定情報の項目とを関連づけて記憶した作業内容変更情報対応記憶手段と、
作業対象機器に対する作業を示す作業内容情報を受け付ける作業内容受付手段と、
前記作業対象機器から作業前後のシステム設定情報を取得する状態取得手段と、
前記作業内容変更情報対応記憶手段を参照して、前記作業内容情報が示す作業によって変更されるシステム設定情報を抽出し、前記取得した作業前後のシステム設定情報と対比することで作業が予定通り行なわれたことを検証する作業検証手段とを備えることを特徴とする作業内容確認装置。
【請求項２】
請求項１に記載の作業内容確認装置であって、
情報が改竄されていないことを証明する認証手段をさらに備え、
前記認証手段は、前記取得した作業前後のシステム設定情報のそれぞれについて認証を行なうことを特徴とする作業内容確認装置。
【請求項３】
請求項１に記載の作業内容確認装置であって、
前記作業検証手段は、
前記作業内容変更情報対応記憶手段から抽出されなかったシステム設定情報については、作業前後において変更がないことをさらに検証することを特徴とする作業内容確認装置。
【請求項４】
複数の項目から構成されるシステム設定情報を管理する作業対象機器に対する作業内容を情報処理装置を用いて確認する作業内容確認方法であって、前記情報処理装置が以下のステップを行なう。
１）作業対象機器に対する作業を示す作業内容情報を受け付ける作業内容受付ステップ。
２）前記作業対象機器から作業前後のシステム設定情報を取得する状態取得ステップ。
３）作業内容と変更されるシステム設定情報の項目とを関連づけて記憶した作業内容変更情報対応記憶手段を参照して、前記作業内容情報が示す作業によって変更されるシステム設定情報を抽出するステップ。
４）前記取得した作業前後のシステム設定情報と対比することで作業が予定通り行なわれたことを検証する作業検証ステップ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、コンピュータシステムに対する作業の内容を確認するための技術に関する。
【背景技術】
【０００２】
コンピュータシステムのメンテナンス、設定変更等のために、サービス会社の技術者が顧客の事業所に出張して作業することがよく行なわれている。
【０００３】
このような場合、作業担当者が予定通りの作業を実施できたかどうかを、顧客が簡易に確認することができれば便利である。このために、作業担当者の操作履歴を記録したり、作業後の設定情報が作業前の設定情報と同じになるように作業前後の設定情報を記録しておくことが行なわれている。
【０００４】
これに関連して、特許文献１には、ホスト計算機と複数の端末からなるシステムで、ホ

ストと端末の通信ログを解析し、ログイン・ログアウトまでのセッション毎に分類し、分類したログを復元することで各端末の端末作業履歴を再現する技術が開示されている。

【０００５】

また、特許文献２には、以下のような技術が開示されている。すなわち、作業者が保守作業を行なうために装置コントローラにより運転条件を変更する際に、変更前の運転条件を第１のメモリに保存しておく。そして、保守作業後にその運転条件に戻して、その運転条件を第２のメモリに保存する。第１のメモリに保存された運転条件と第２のメモリに保存された運転条件とを比較して不一致の条件項目を画面に表示させることで、保存前と同じ運転条件に戻すことができる。

【０００６】

【特許文献１】特開平６－２１４８３２号公報

【特許文献２】特開２００２－３５３０８５号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００７】

しかし、特許文献１に開示されているような作業担当者の操作履歴を記録する方法では、操作履歴から作業内容を特定するのに手間がかかる。また、特許文献２に開示されているような作業後の設定情報が作業前の設定情報と同じになるように作業前後の設定情報を記録しておく方法では、設定情報自身を変更する作業の場合に、意図して設定情報を変更したのか作業ミスにより設定情報が変更されたのかの判別が困難である。

【０００８】

さらに、後日、顧客から作業対象となったコンピュータシステムの不具合を指摘された場合、その原因が作業前からあったのか、作業後に発生したのかを把握できれば、作業担当者の作業ミスの有無を判断するのに役立つ。

【０００９】

本発明は、コンピュータシステムのシステム設定情報を変更する作業において、作業担当者の作業内容を簡易に確認することができる技術を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【００１０】

上記課題を解決するため、本発明によれば、

複数の項目から構成されるシステム設定情報を管理する作業対象機器に対する作業内容を確認する作業内容確認装置であって、

作業内容と変更されるシステム設定情報の項目とを関連づけて記憶した作業内容変更情報対応記憶手段と、

作業対象機器に対する作業を示す作業内容情報を受け付ける作業内容受付手段と、

前記作業対象機器から作業前後のシステム設定情報を取得する状態取得手段と、

前記作業内容変更情報対応記憶手段を参照して、前記作業内容情報が示す作業によって変更されるシステム設定情報を抽出し、前記取得した作業前後のシステム設定情報と対比することで作業が予定通り行なわれたことを検証する作業検証手段とを備えることを特徴とする作業内容確認装置が提供される。

【００１１】

ここで、情報が改竄されていないことを証明する認証手段をさらに備え、

前記認証手段は、前記取得した作業前後のシステム設定情報のそれぞれについて認証を行なうことができる。

【００１２】

さらには、前記作業検証手段は、

前記作業内容変更情報対応記憶手段から抽出されなかったシステム設定情報については、作業前後において変更がないことをさらに検証するようにしてもよい。

【発明の効果】

【００１３】

本発明によれば、コンピュータシステムのシステム設定情報を変更する作業において、作業担当者の作業内容を簡易に確認することができるようになる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１４】

本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【００１５】

図１は、本実施例の構成の一例を示すブロック図である。本図に示すように本実施例においては、メンテナンス、設定変更等の作業対象である作業対象機器２０と、作業担当者が行なった作業内容を確認するための作業確認装置１０とが接続されている。

【００１６】

作業確認装置１０と作業対象機器２０との接続形態は、ＵＳＢ、イーサネット（登録商標）ケーブル等の有線でもよいし、ＩＥＥＥ　８０２．１１等に準拠した無線であってもよい。

【００１７】

作業対象機器２０は、種々の情報処理装置を用いることができるが、代表的には、サーバコンピュータ、端末コンピュータ、ワークステーション等とすることができる。本実施例において、作業対象機器２０には、ディスプレイ装置２１、マウス２２、キーボード２３が接続されており、その機器の目的に応じた処理を行なうように構成されている。

【００１８】

作業対象機器２０は、ソフトウェア的な構成として、オペレーティングシステム部２１０、アプリケーション部２２０、ユーザファイル部２３０を備えている。

【００１９】

オペレーティングシステム部２１０は、作業対象機器２０の基本的なタスク管理、ファイル管理、ユーザインタフェース等を提供する機能部である。

【００２０】

オペレーティングシステム部２１０は、作業対象機器２０のシステム状態、各種設定情報等（システム設定情報）を集中管理しており、その情報をシステム情報部２１１に記録している。システム情報部２１１は、オペレーティングシステム部２１０が所定のディレクトリ下で管理するファイルとして存在することができる。オペレーティングシステム部２１０として、例えば、マイクロソフト社のＷｉｎｄｏｗｓを用いた場合には、レジストリがシステム情報部２１１として機能することになる。

【００２１】

アプリケーション部２２０は、オペレーティングシステム部２１０上で稼働するアプリケーションプログラムにより作業対象機器２０上に仮想的に構成される。

【００２２】

ユーザファイル部２３０は、作業対象機器２０のユーザが用いるファイル群である。

【００２３】

なお、作業対象機器２０のソフトウェア構成は一例であり、本図の例に限定されない。ただし、作業対象機器２０のシステム設定情報を記憶するシステム情報部２１１は、少なくとも備えているものとする。

【００２４】

作業確認装置１０は、ソフトウェア的な構成として、作業内容受付部１１０、状態取得部１２０、記録部１３０、作業検証報告部１４０、認証部１５０、作業内容変更情報対応ＤＢ１６０を備えている。

【００２５】

作業内容受付部１１０は、作業対象機器２０に対する作業の内容を示した作業内容記述データ１２を受け付ける。作業内容記述データ１２の受け付けは、例えば、作業担当者が電子データを入力することで行なうことができる。入力された作業内容記述データ１２は、作業内容情報として記録部１３０に記録する。

【００２６】

作業内容記述データ１２は、例えば、図２に示すような内容とすることができる。本図の例では、作業内容として、「ホスト名の設定・変更」「ＩＰアドレスの設定変更」「ＰＡＴＨの指定（システム環境変数）」「ＰＡＴＨの指定（ユーザ環境変数）」「サブネットマスクの設定変更」が記述されている。

【００２７】

そして、それぞれの項目毎に、作業前の状態、作業後の状態が記述されている。例えば、「ホスト名の設定・変更」という作業内容に対して、新規に「ＨＯＳＴ＿Ａ」という名称を設定することが指定され、「ＩＰアドレスの設定変更」という作業内容に対して、「１９２．１６８．１０．２」から「１０．２０．３０．２」に変更することが指定されている。ただし、作業内容記述データ１２の記述フォーマットは種々の形態を採ることができるものとする。作業内容記述データ１２は、作業内容に応じて、あらかじめ作成しておくようにする。

【００２８】

状態取得部１２０は、作業対象機器２０から作業対象機器２０のシステム設定情報を取得する。具体的には作業対象機器２０のオペレーティングシステム部２１０が管理するシステム情報部２１１にアクセスして、システム設定情報を取得する。状態取得部１２０は、作業前および作業後において作業対象機器２０からシステム設定情報を取得する。作業対象機器２０から取得したシステム設定情報は、記録部１３０に記録する。

【００２９】

記録部１３０は、作業確認装置１０において用いられる各種データ、ファイル等を記録する。具体的には、後述する作業情報１３０ａ、作業前状態１３０ｂ、作業後状態１３０ｃ、作業内容情報１３０ｄ、検証用情報１３０ｅを記録する。

【００３０】

作業検証報告部１４０は、受け付けた作業内容記述データ１２、作業前後に取得した作業対象機器２０のシステム設定情報に基づいて、作業担当者が行なった作業の検証を行なうとともに、作業報告書１４を作成する。

【００３１】

認証部１５０は、インターネット７０を介して認証局５０と通信を行ない、作業前後に取得した作業対象機器２０のシステム設定情報について認証を与える。具体的には、作業前後のシステム設定情報が改竄されていないことを保証する。認証部１５０および認証局５０が与える認証は種々の方法を採用することができる。

【００３２】

作業内容変更情報対応ＤＢ１６０は、作業内容記述データ１２に記述された作業内容毎に、変更されるシステム設定情報を記録したデータベースである。作業内容変更情報対応ＤＢ１６０は、あらかじめオペレーティングシステム部２１０の仕様に基づいて作成しておくようにする。

【００３３】

図３は、作業内容変更情報対応ＤＢ１６０に記録される情報の例を示す図である。本図の例では、作業内容毎に、変更されるシステム設定情報の項目（パス情報）と、値とが記録されている。例えば、「ホスト名の設定変更作業」では、「HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\MSWNT\CurrentVersion\Winlogon」の「AltDefaultDomainName」「DefaultDomainName」等の値が変更されることが示されている。システム設定情報の項目（パス情報）は、システムの環境により異なることがあるため、ワイルドカード「*」も使用可能とする。

【００３４】

なお、作業確認装置１０は、ＣＰＵ、メモリ、補助記憶装置等を備えた一般的なコンピュータを用いて構成することができる。一般的なコンピュータは、本発明向けに開発されたコンピュータプログラムを実行することにより作業確認装置１０として機能することができる。もちろん、上述の機能を備えた専用装置を用いて作業確認装置１０を構成するようにしてもよい。

【００３５】

次に、本実施例の処理の流れについて図４のフロー図を参照して説明する。

【００３６】

本実施例では、作業確認装置１０の作業内容受付部１１０が、作業担当者から作業内容記述データ１２を受け付けることで処理が開始される（Ｓ１０１）。作業内容受付部１１０は、受け付けた作業内容記述データ１２の内容を、作業内容情報１３０ｄとして記録部１３０に記録する。

【００３７】

また、作業検証報告部１４０は、作業内容記述データ１２の内容にしたがって作業情報１３０ａを作成して、記録部１３０に記録する（Ｓ１０２）。

【００３８】

作業情報１３０ａは、その作業についての種々の情報を記録するためのファイルである。

【００３９】

図５は、作業情報１３０ａが記録する情報の一例を示す図である。本図に示すように、本実施例において作業情報１３０ａは、顧客名１３１、作業対象機器１３２、作業日時１３３、作業内容情報ファイル１３４、作業前状態ファイル１３５、作業前認証情報１３６、作業後状態ファイル１３７、作業後認証情報１３８、検証用情報ファイル１３９を記録する。

【００４０】

顧客名１３１は、本作業の顧客を特定するための情報である。作業対象機器１３２は、作業対象機器２０を特定するための情報である。作業日時１３３は、本作業の開始日時と終了日時とを示す情報である。作業内容情報ファイル１３４は、記録部１３０に記録された本作業に係る作業情報１３０ａを特定するための情報である。作業前状態ファイル１３５は、本作業前のシステム設定情報を記録した作業前状態１３０ｂを特定するための情報である。作業前認証情報１３６は、作業前状態１３０ｂが改竄されていないことを証明するための情報である。作業後状態ファイル１３７は、本作業後のシステム設定情報を記録した作業前状態１３０ｂを特定するための情報である。作業後認証情報１３８は、作業後状態１３０ｃが改竄されていないことを証明するための情報である。検証用情報ファイル１３９は、本作業に係る検証用情報１３０ｅを特定するための情報である。

【００４１】

作業内容記述データ１２を受け付けた段階では、これらの情報のうち、顧客名１３１、作業対象機器１３２、作業日時１３３、作業内容情報ファイル１３４が作業情報１３０ａに記録される。なお、これらの情報は、作業担当者から直接入力を受け付けるようにしてもよい。

【００４２】

つぎに、作業検証報告部１４０は、受け付けた作業内容記述データ１２の内容をもとに作業内容変更情報対応ＤＢ１６０を参照して、本作業により変更されるべきシステム設定情報を抽出する（Ｓ１０３）。

【００４３】

具体的には、作業内容記述データ１２に示された作業内容をキーに作業内容変更情報対応ＤＢ１６０を検索し、抽出されたデータで示されるシステム設定情報が本作業により変更されるべきシステム設定情報となる。逆に抽出されなかったシステム設定情報は、本作業によっては変更されるべきではないシステム設定情報となる。

【００４４】

作業検証報告部１４０抽出されたシステム設定情報を検証用情報１３０ｅとして記録部１３０に記録し、そのファイルを特定するための情報、例えば、ファイル名を作業情報１３０ａの検証用情報ファイル１３９に記録する（Ｓ１０４）。

【００４５】

図６は、検証用情報１３０ｅのうち、本作業により変更されるべきシステム設定情報を示している。本図の例では、システム設定情報の項目毎に、変更前の設定内容と変更後の

設定内容とが記録されている。

【００４６】

そして、状態取得部１２０が、作業対象機器２０のシステム情報部２１１にアクセスして作業対象機器２０のすべてのシステム設定情報を取得する（Ｓ１０５）。すなわち、変更対象となっているか、なっていないかにかかわらず取得する。取得したシステム設定情報は作業前状態１３０ｂとして記録部１３０に記録し、そのファイルを特定するための情報、例えば、ファイル名を作業情報１３０ａの作業前状態ファイル１３５に記録する。

【００４７】

なお、この際に、作業内容記述データ１２に記録された作業前の状態と取得した作業前のシステム状態とを比較して、作業前の作業対象機器２０の状態が正常であるかどうかの判断を行なうようにしてもよい。この際に、作業対象機器２０の状態が正常でない場合には、作業担当者にその旨を通知することが望ましい。

【００４８】

作業前の作業対象機器２０のシステム設定情報が記録されると、作業担当者は、あらかじめ決められた作業内容にしたがって作業対象機器２０に対する作業を行なう。

【００４９】

作業担当者による作業が終了すると、状態取得部１２０は、作業対象機器２０のシステム情報部２１１にアクセスして作業対象機器２０のすべてのシステム設定情報を取得する（Ｓ１０６）。取得したシステム設定情報は作業後状態１３０ｃとして記録部１３０に記録し、そのファイルを特定するための情報、例えば、ファイル名を作業情報１３０ａの作業後状態ファイル１３７に記録する。

【００５０】

なお、この際に、作業内容記述データ１２に記録された作業後の状態と取得した作業後のシステム状態とを比較して、作業後の作業対象機器２０の状態が正常であるかどうかの判断を行なうようにしてもよい。この際に、作業対象機器２０の状態が正常でない場合には、作業担当者にその旨を通知することが望ましい。

【００５１】

そして、作業検証報告部１４０は、作業内容の検証処理を行なう（Ｓ１０７）。ここで、作業内容の検証処理は、以下のように行なうことができる。

【００５２】

すなわち、記録部１３０に記録された作業前状態１３０ｂと作業後状態１３０ｃとを比較して、変更されたシステム設定情報と、変更されなかったシステム設定情報とを把握する。

【００５３】

ついで、本作業により変更されるべきシステム設定情報を記録した検証用情報１３０ｅと対比して、変更されるべきシステム設定情報がすべて正しく変更されているか、変更されるべきでないシステム設定情報が変更されていないかを確認する。

【００５４】

この結果、変更されるべきシステム設定情報が正しく変更されていなかったり、変更されるべきでないシステム設定情報が変更されていた場合（Ｓ１０７：ＮＧ）には、作業が正しく行なわれなかったものとして、作業担当者に警告を通知して、再度の作業を促すようにする。

【００５５】

一方、変更されるべきシステム設定情報がすべて正しく変更されおり、変更されるべきでないシステム設定情報が変更されていない場合（Ｓ１０７：ＯＫ）には、作業が正しく行なわれたものと判断する。

【００５６】

そして、記録部１３０に記録された作業前状態１３０ｂと作業後状態１３０ｃとが後に改竄されることを防ぐために、認証部１５０は、作業前状態１３０ｂと作業後状態１３０ｃとに対して認証情報を付加する（Ｓ１０８）。認証情報の付加は、種々の技術を用いる

ことができるが、例えば、認証局５０を利用して、証明書を発行してもらったり、デジタル署名を作業前状態１３０ｂと作業後状態１３０ｃとに付加する従来の技術を用いてもよい。なお、認証に必要な情報、例えば、証明書ファイル名等は、作業情報１３０ａの作業前認証情報１３６、作業後認証情報１３８に記録する。

【００５７】

最後に、作業検証報告部１４０は、記録部１３０に記録された情報を用いて作業報告書を作成して、出力する（Ｓ１０９）。この作業報告書は、顧客に対して作業が正常に完了したことを報告するものであり、例えば、図７に示すような形式とすることができる。

【００５８】

本図の例では、作業内容ごとに、変更されるシステム設定情報（レジストリ）が示され、作業実施前、作業実施後の設定値がそれぞれ予定通りになっていることを確認するための情報が記されている。また、あわせて変更しない項目についてもシステム設定情報（レジストリ）が示され、作業実施前、作業実施後の設定値がそれぞれ予定通りになっていることを確認するための情報が記されている。さらに、顧客がその内容を承認するための欄も設けられている。

【００５９】

これにより、コンピュータシステムのシステム設定情報を変更する作業において、作業担当者の作業内容を簡易に確認することができるようになる。

【００６０】

なお、本発明は、上記の実施例に限られず種々の形態をとることができる。例えば、上記の実施例では、作業確認装置１０と作業対象機器２０とは、それぞれ独立した別装置としていたが、作業確認装置を作業対象機器に組み込むようにしてもよい。すなわち、コンピュータを作業確認装置として機能させるためのコンピュータプログラムを作業対象機器にインストールすることで作業対象機器２０上で作業の確認を行なうように構成することもできる。

【図面の簡単な説明】

【００６１】

【図１】本実施例の構成の一例を示すブロック図である。

【図２】作業内容記述データの一例を示す図である。

【図３】作業内容変更情報対応ＤＢに記録される情報の例を示す図である。

【図４】本実施例の処理の流れについて説明するためのフロー図である。

【図５】作業情報が記録する情報の一例を示す図である。

【図６】検証用情報のうち変更されるべきシステム設定情報を示す図である。

【図７】作業報告書の一例を示す図である。

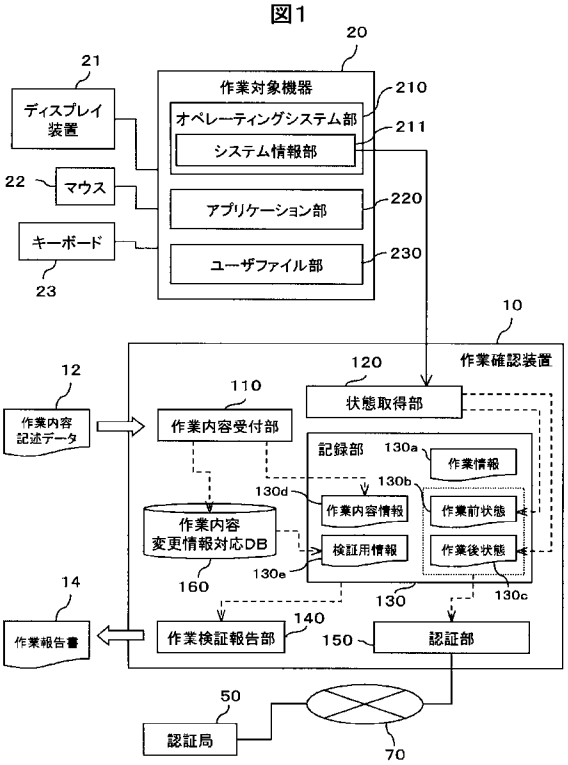
【符号の説明】

【００６２】

１０…作業確認装置、１２…作業内容記述データ、１４…作業報告書、２０…作業対象機器、２１…ディスプレイ装置、２２…マウス、２３…キーボード、５０…認証局、７０…インターネット、１１０…作業内容受付部、１２０…状態取得部、１３０…記録部、１４０…作業検証報告部、１５０…認証部、１６０…作業内容変更情報対応ＤＢ、２１０…オペレーティングシステム部、２１１…システム情報部、２２０…アプリケーション部、２３０…ユーザファイル部

【図１】

図1



【図２】

図2

12

作業内容記述ファイル「20060222_102831_A製作所_HA8000一号機(資産番号123456).csv」

"ホスト名の設定・変更","-","HOST_A"
"IPアドレスの設定変更","192.168.10.2","10.20.30.2"
"PATHの指定(システム環境変数)","C:¥WNT;C:¥WNT¥system32;C:¥WNT¥System32¥Wbem;"
"PATHの指定(ユーザ環境変数)","%PATH%;%JAVA_HOME%¥bin"
"サブネットマスクの設定変更","255.255.255.0"

【図３】

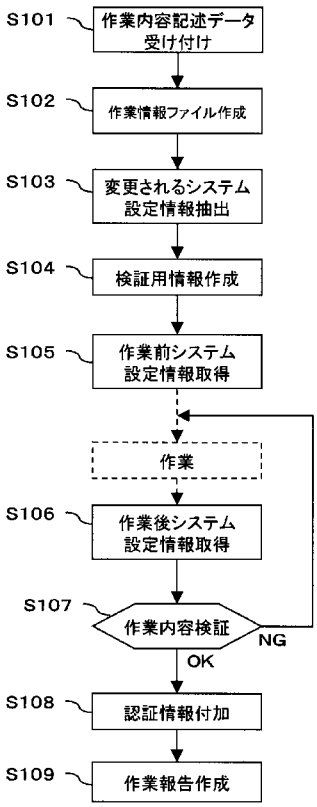
図3

160

作業内容	システム設定情報	値
ホスト名の設定変更	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥MSWNT¥CurrentVersion¥Winlogon	AltDefaultDomainName
	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥MSWNT¥CurrentVersion¥Winlogon	DefaultDomainName
	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥ComputerName¥ActiveComputerName	ComputerName
	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥ComputerName¥ComputerName	ComputerName
	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters	Hostname
	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters	NV Hostname
IPアドレスの設定変更	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥{*}¥Parameters¥Tcpip	IPAddress
	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters¥Interfaces¥{*}	IPAddress
サブネットマスクの設定変更	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥{*}¥Parameters¥Tcpip	SubnetMask
	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters¥Interfaces¥{*}	SubnetMask

【図４】

図4

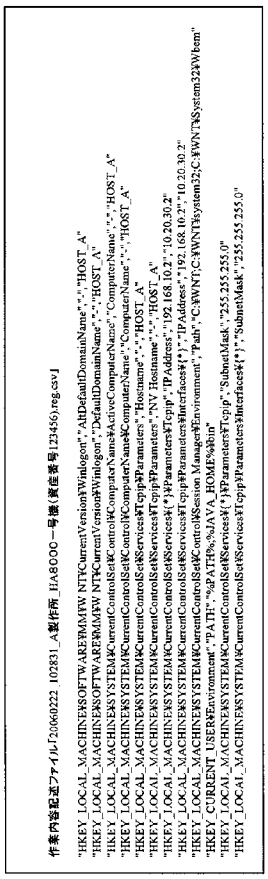


【図５】

図5

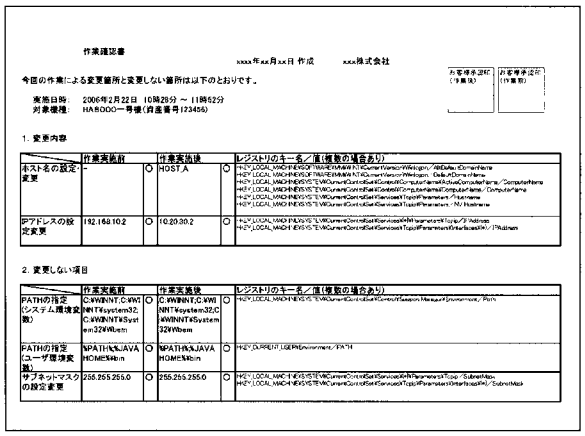
【図６】

図6



【図７】

図7


作業確認書

xxxx年xx月xx日 作成　　xxx株式会社

今回の作業による変更箇所と変更しない箇所は以下のとおりです。

実施日時：　2006年2月22日　10時25分 ～ 11時52分
対象機種：　HA8000一号機(資産番号123456)

1. 変更内容

	作業実施前		作業実施後		レジストリのキー名／値(複数の場合あり)
ホスト名の設定変更	-	○	HOST_A	○	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥MMW NT¥CurrentVersion¥Winlogon","AltDefaultDomainName","","HOST_A" "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥MMW NT¥CurrentVersion¥Winlogon","DefaultDomainName","","HOST_A" "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥ComputerName¥ActiveComputerName","ComputerName","","HOST_A" "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥ComputerName¥ComputerName","ComputerName","","HOST_A" "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters","Hostname","","HOST_A" "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters","NV Hostname","","HOST_A"
IPアドレスの設定変更	192.168.10.2	○	10.20.30.2	○	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥*¥Parameters¥Tcpip","IPAddress","192.168.10.2","10.20.30.2" "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters¥Interfaces¥{*}","IPAddress","192.168.10.2","10.20.30.2"

2. 変更しない項目

	作業実施前		作業実施後		レジストリのキー名／値(複数の場合あり)
PATHの指定(システム環境変数)	C:¥WINNT;C:¥WINNT¥system32;C:¥WINNT¥System32¥Wbem	○	C:¥WINNT;C:¥WINNT¥system32;C:¥WINNT¥System32¥Wbem	○	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥Environment","Path"
PATHの指定(ユーザ環境変数)	%PATH%;%JAVA_HOME%¥bin	○	%PATH%;%JAVA_HOME%¥bin	○	"HKEY_CURRENT_USER¥Environment","PATH"
サブネットマスクの設定変更	255.255.255.0	○	255.255.255.0	○	"HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip","SubnetMask" "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters¥Interfaces¥{*}","SubnetMask"